が出会ったのは早稲田のスキューバダイビングのサークルでした。入学してからというもの春から夏にかけては海に潜ってばかりいます。1年生の時には、三宅島に始まり、伊豆、沖縄そして再び三宅島と、ほぼ毎週ダイビングに出かけていました。そんなサークルも今年の夏で引退し、幹部も交代したのですが、同期のメンバーが口をそろえて言うことは「大学でこんなに好きになって、一生付き合っていけるような仲間ができるとは思っていなかった」ということです。本当に大好きな信頼し合える友人たちです。

留学とは関係のない話題になってしまいましたが、ここにサークルのことを書かせてもらったのは、やはり今の自分がいるのはそこで出会った仲間と一緒に成長し、価値のある時間を多く過ごしてきたからです。実はサークルの同期の中には、私以外にもアメリカとドイツへ、やはり早稲田のプログラムを利用して9月から留学する子がいるため、8月末には3人あわせてかなり盛大な歓送会を開いてもらいました。そこでようやく日本を離れ、慣れ親しんだ顔をしばらく見なくなるのだ、という寂しさをひしひし感じました。またそれと同時に、これだけ応援してもらっているのだからしっかり頑張ってこようと、改めて決意できたのです。

3、留学への意気込み

日本では朝晩はもうだいぶ涼しく、すこし秋らしくなってきました。大学3年生ということで、本来なら私もこの秋あたりから就職活動を始める時期です。実際、友人の中には夏休みのうちから企業のインターンに参加する人や就職セミナーに足を運ぶ人、明るい茶色だった髪の毛を黒く染める人が少なくありませんでした。同学年の子が何人か集まる席では必ずと言っていいほど就活のことが話題にあがります。

「なぜ留学するの?」始めこの質問に、私ははっきりと答えることができませんでした。前期に早稲田大学で受講していた松本先生のクラス(Academic Skills for Study Abroad)では、受講生のほとんどが留学予定者。留学の動機や将来の展望を語るほかの受講生に、私は留学が目的になってしまっているのではないかと不安やコンプレックスを感じたこともありました。

そこで私は少しでも留学することに対して自分に自信を持たなくてはと、できる限りの日程で補講に参加しようと決めました。講師の松本先生や山田先生をはじめ、Teaching Assistantの先輩方には論理的な考え方やエッセイのテクニックを教わるだけでなく、留学に対する不安をだいぶ取り除いていただきました。この授業を通して出会った人と、「自分が留学する理由」についてしっかり考えて整理できたことは、私にとって大きな収穫です。

サークル内で9月から留学する3人(中央が私)
左から、ドイツ、オレゴン、カルフォルニアへ留学

留学先での苦労話や授業の大変さなど、先輩方からも話を伺いましたが、不安や心配事は言い出したらきりがなくなります。それよりも、3年生になりそのまま就職活動をするのではなく、留学という道を選んだということをしっかりみつめて、これからの10か月間を意味のあるものにしていかなくてはと思っています。

4、留学に向けて

この文章を書いている時点では、私はまだ留学の準備段階です。ようやくビザの申請も終わり、いよいよ荷造り。正直なところ、やっと自分が留学するという実感がわいてきたところです。これから三浦礼子という海外生活の経験がない日本人の女子大生が、アメリカの大学でどのようにSurviveしていくのか?その時その時に私が留学先で感じることや経験することを、素直に伝えていくことができたらと思っています。この留学が、実りの多いものとなりますように。

(2009年8月28日)

三浦さんの留学日記のスタートです。文学部系の勉強をしている女性の視点からの体験記。1年間、楽しみにしています。

私の早稲田大学でのクラスは8年目になります。4月からの前期と夏季集中を受講した多くの学生が世界中の大学に1年間の留学に出発し、到着の第一報が届き始めました。期待と不安のメッセージです。

三浦さんも留学への期待と不安でいっぱいでした。何度か話をする内に、留学に前向きな姿勢に変わり、自信がついてきました。きっと「実り多い」留学生活になると信じています。　がんばってください。

「海外の子どもの教育情報誌に、留学体験記はなぜ?」との質問を聞きます。

このコラムの筆者は留学をしている大学生です。1年間のエッセイを読むと、彼らの異文化体験のプロセスが行間にあふれています。

そのプロセスは年齢も環境も少し違いますが、皆さんのお子さんが海外での生活をスタートした時の体験と同じものだと思います。

自分の体験・気持ちを自らの言葉で表現できない皆さんのお子さんの文章として、この留学体験記をお読みになり、お子さんの異文化適応の理解に役立てて欲しいとの、私の願いです。　それが掲載の理由です。

これまでの「アメリカ留学日記」は、infoe.comで読めます。どうぞ。